

ホワイトハウス担当記者が語る「トランプ再選」の可能性

2020年7月22日

講師：デヴィッド・ナカムラ

ワシントン・ポスト紙 ホワイトハウス担当記者

経済広報センターは7月22日、ワシントン・ポスト紙のデヴィッド・ナカムラ記者を招き、「ホワイトハウス担当記者が語るトランプ政権の実態と大統領選の行方」と題するオンライン会合を開催した。会員団体・企業等関係者はじめ約50名が参加した。

米政権の中枢に取材し記事を執筆しているナカムラ氏はトランプ大統領について、ウクライナ問題を乗り切り経済も好調だった今年の内には再選に自信を抱いていたが、新型コロナウイルスへの対応の拙さとその後の経済悪化によって情勢が大きく変化したと分析。

さらに、「法と秩序」のスローガンによってBLM運動を抑圧する姿勢が国民の反感を招いており、最新の世論調査結果をみる限り再選が難しくなっているとの見方を示した。

ナカムラ氏は、トランプ大統領の頭には再選しかなく、ホワイトハウスでの記者会見も選挙演説の様相を呈していると指摘。再選に向けたサプライズとして、新型コロナウイルスのワクチン開発を手柄にする、民主党側に有利とされる郵送投票を制限する、といった可能性を示唆した。また、対中非難に加え、米国で開催予定のG7など外交の場を利用してドイツやカナダの首脳を批判の対象にすることもあり得ると述べた。

バイデン氏が大統領になった場合の国際関係については、伝統的な民主党の顧問団がスタッフになっており、同盟関係重視、アジア回帰の動きなどになるだろうと予想した。

以上

一般財団法人

経済広報センター

国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-2 経団連会館19階

電話：03-6741-0031

<http://www.kkc.or.jp/>

<http://en.kkc.or.jp/>

※本稿の無断転載を禁じます。